

長崎県・島原市

雲仙岳災害記念館

—噴火災害復興と“がまだす”のシンボル—

橋本紳一郎 編集委員

19年前の1990年11月17日、1998年ぶりに噴火活動を開始した雲仙普賢岳は、1996年6月に終息するまで、火砕流や土石流により麓の市や町に大きな被害をもたらした。

今回訪れた雲仙岳災害記念館は、雲仙普賢岳の噴火に伴う火山噴火物の下流海浜にあり、まさに土石流被災地の下流海浜にあり、島原駅から車で15分、噴火によって形成された平成新山と有明海に挟まれた景色の素晴らしい場所だ。記念館の通称は、「がまだすドーム」。「がまだす」とは、島原の方言で「頑張る」という意味で、復興時の合い言葉として地元の人たちに親しまれた言葉である。

2002年7月に開館した記念館は、複雑な曲面の屋根をもつガラス張りの明るい2階建ての構造で、屋上デッキからは周囲の素晴らしい景色も望める。まず、最初に入口の「マゲマゲート」と呼ばれるトンネル状のスクリーンにマグマの動きを再現した空間を通ると、その先には、火山や防災に関する11の展示ゾーン（約250展示）が広がる。

入ってすぐに目につくのは、実際に火砕流によってなぎ倒された木々をガラス張りの床（長さ約40m）に再現した「火砕流の道」である。数分に一度、床のガラス面に火砕流と同じ速度の赤い光が流れ、身をもって火砕流の速度を体験できる。その先にあるのが、

Access アクセス

所在地 〒855-0879 長崎県島原市平成町1-1

電話 0957-65-5555

交通 島原駅から車で15分、島原港から車で7分

○鉄道(JR九州)

博多—諫早—島原(所要時間/2時間50分)

長崎—諫早—島原(所要時間/1時間30分)

○船・フェリー

大牟田港—島原港(所要時間/40分)

熊本新港—島原港(所要時間/30、60分)

開館 9:00~18:00(入館は17:00まで)

年中無休(メンテナンス休館日あり)

入場料 大人:1000円、中高生:700円、小学生:500円

URL <http://www.udmh.or.jp>



雲仙普賢岳噴火時の映像や火砕流の映像をドーム状の大型スクリーン(直径14m)で再現した「平成大噴火シアター」である。映像と連動して床が動き、熱風が吹き出すため、被災地にいるようにも感じられる。防災や災害復興に関するコーナーなども、展示だけではなく実際に体験できる施設が多いことから、全国初の火山体験ミュージアムともいわれている。学術的にも貴重な平成噴火噴出物による堆積層のほざと標本展示のほか、火砕流被災直後の島原市付近の様子を被災物の展示で再現したコーナーや、火砕流で犠牲になったカメラマンの被災カメラの展示と残された映像など、被災した多くの実物を展示しているのもこの記念館の特徴である。

自然災害に対して、また、災害復興に対してわれわれ土木が、どうあるべきかを改めて考えさせられる体感型の記念館にぜひ、足を運んで感じてもらいたい。



記念館の外観



ガラス張りの床に再現した「火砕流の道」



火砕流・土石流の被災エリアの模型



平成噴火噴出物のはぎとり標本



火砕流被災直後の島原市付近の様子再現



実際に使用されたジープと映像による被災地の擬似走行



火砕流で犠牲になったカメラマンの被災カメラ

※ご要望にお応えして、今回より本連載の写真をカラーといたしました。